

業 興 研 理

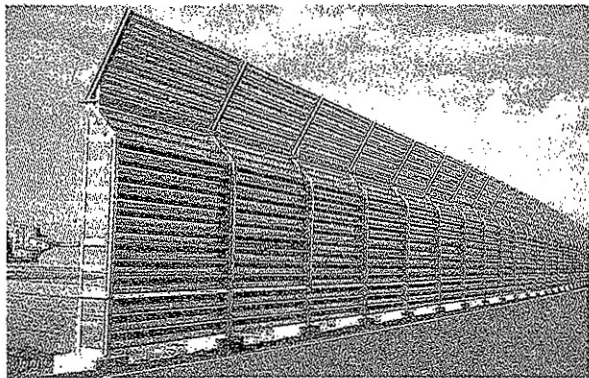
道工業大学と共同で

高性能防雪柵を開発

過酷な条件下でも機能発揮

防雪柵メーカーの理研興業(小樽、柴尾耕三社長)は、北海道工業大学の白濱芳朗教授と共同研究を行い、従来型の防雪柵では防雪効果の発揮が難しい過酷な気象・地形条件下において、高い防雪機能を発揮する防雪柵として、路肩や広幅員道路・高規格道路に設置できる画期的な新型高性能防雪柵を開発した(写真上)。

この防雪柵は、従来の吹止式防雪柵と吹払式防雪柵の利点を兼ね備えており、雪丘の成長過程では飛雪を柵の風上側に堆積させ、柵により圧縮された風雪は柵



を得られるほか(下左図参照)、用地買収の困難な場所や予算に制約のある箇所、広幅員道路や高規格道路等、あらゆる条件に適応できることから、各官公庁も注目しており、同社には見学者が多数訪れている。開発に当たっては、従来型の忍び返し付吹止柵・誘導板付吹止柵等と新型(誘導板付忍び返し柵)について、模

の風下側に吹き上げるもので、雪丘が成長した後でも飛雪を吹き上げることができ、高い堆雪能力を維持しながら良好な視界の確保

型(忍び返し付吹止柵・誘導板付吹止柵等と新型(誘導板付忍び返し柵)について、模

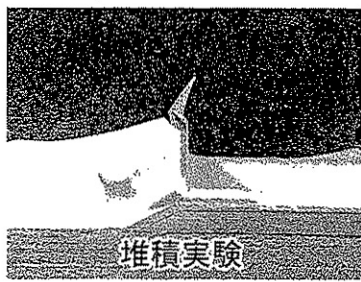
誘導板付忍び返し柵

路肩や広幅員・高規格道路等  
あらゆる条件に適応

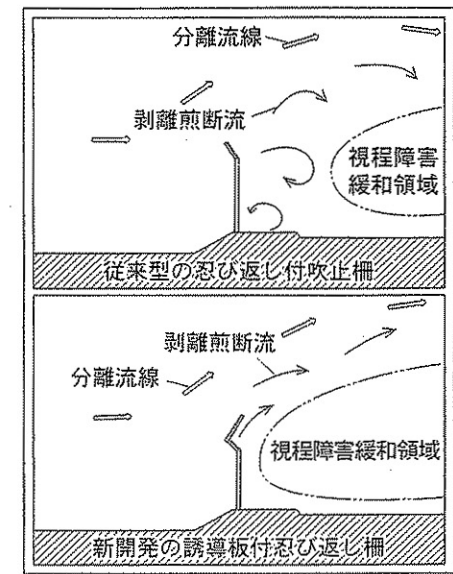
型吹雪実験や煙法可視化実験等、各種比較実験(写真下)を行ったほか、フィールド実験でも効果を検証。その高い性能が実証されており、現在特許申請中。



可視化実験



堆積実験



ない時も、堆積が多くなつた時も、道路上に雪の堆積、雪の巻き上げを引き起こさず、雪による道路交通障害を防止でき、かつ路肩等あらゆる所に設置できる」と製品の性能に自信をみせている。

柵の共同開発を行っている。また、昨年一月には雪氷技術研究所を設立し、綿密な設計調査に基づき、数値シミュレーションや風洞実験を行い、現地状況に最も適した防雪対策の研究・提案に力を入れている。詳細問い合わせは、同社(小樽市銭函三丁目二六三番地七、電話〇二三四一六二一〇三三、FAX62一〇〇八八)まで。

理研興業(株)は、昭和三十年に創業。以来、防雪柵・防風柵・防雪対策施設的设计・製造を手掛け、着実に業績を伸ばしてきた。平成七年に最新の地吹雪再現風洞実験室や製品検査場を備